

## 早いもの勝ち！

### 日系企業メキシコ進出处方箋（その1）

キマタパーソネル&コンサルタンツ社長  
木全健一

#### 1. 米国景気動向

3月統計によると失業率が7.7%にまで改善し、米国経済は緩やかな回復軌道を辿っている。企業業況については、非製造業に比べて低調な製造業に持ち直しがみられる。「財政の崖」が回避され、株価も高騰している。しかしあまり雇用は増えておらず、決め手となるような新しい産業が出てくる兆候は無い。

#### 2. 日本景気動向

昨年末からアベノミクスの影響で円安が進み、日本国内の輸出市場は活況を呈している。1ドル100円に迫る円安になっており、これからどう輸出産業が息を吹き返すか楽しみであろう。

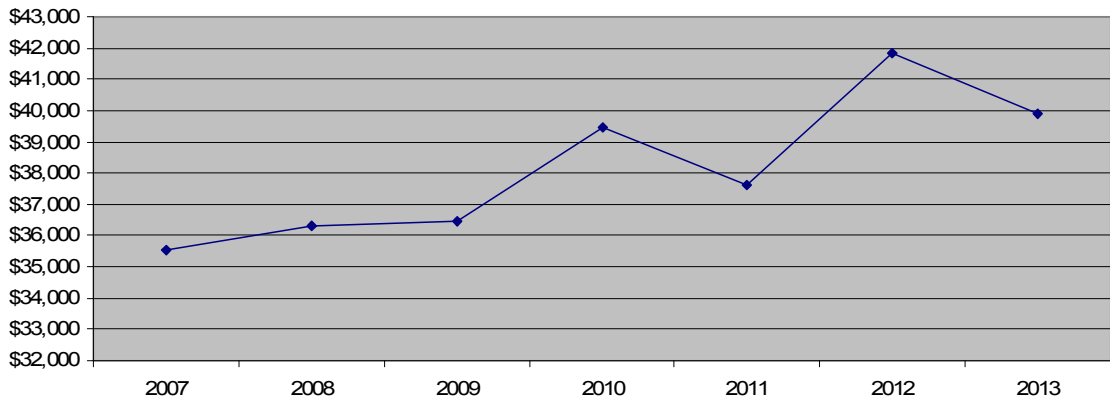
#### 3. 当世若者考

自動車メーカーが海外に大胆に進出しているが、若者の就職人気はさっぱりである。海外でのテロに巻き込まれた事件も影響し、若者の海外勤務を避ける傾向は今後も変わりそうに無い。また在米日系企業のH1-Bビザのサポート企業も激減しており、米国内でも人材育成は著しく滞っている。

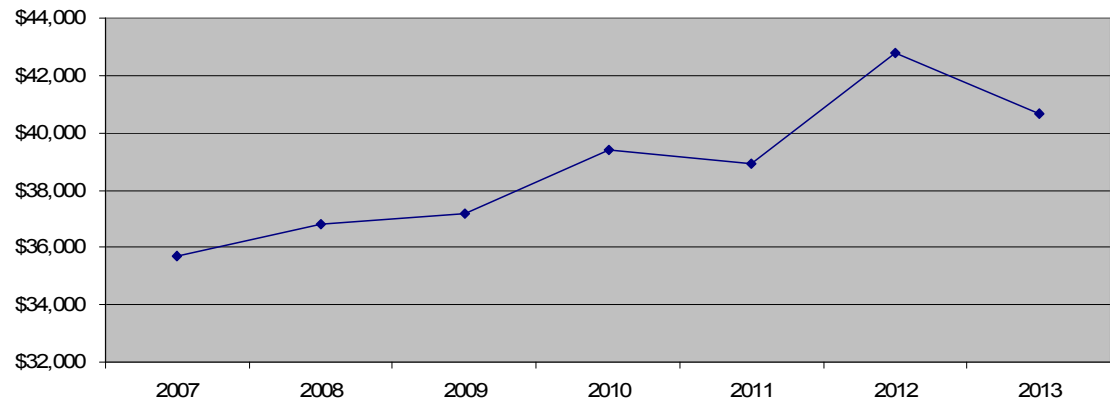
#### 5. 給与動向

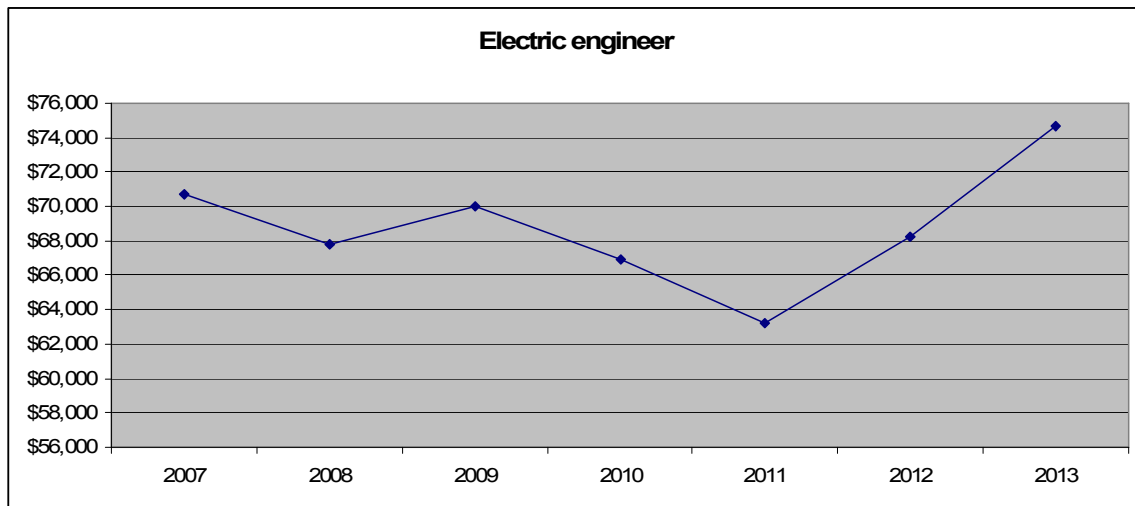
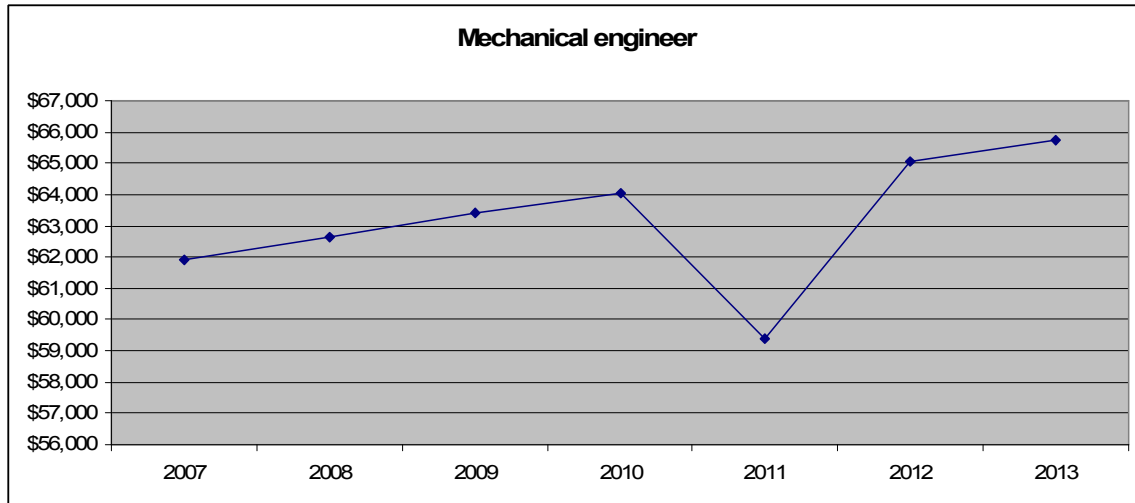
主要各ポジションの年間基本給の平均を以下に示す。  
尚データは、㈱日経リサーチが実施した「在米日系企業における現地スタッフの給料と待遇に関する調査」の調査結果を元に作成しており、前年の支給額実績を示している。  
給与面では、エンジニア系で横ばい、事務系のポジションで微減となっている。

**Admin. assistant**



**accounting assistant**





## 6. 弊社のメキシコ事業取り組み

弊社では2011年よりメキシコ人材斡旋事業に取り組んでおり、今年で4年目を迎えた。昨年度は大小200社に及ぶ自動車メーカーがメキシコ中央高原に殺到した。

今年に入りシカゴの機械メーカーが多数進出しておりメキシコ投資熱は衰える気配が無い。

各社メキシコ工場設立に関しては綿密な計画を立てているが、人材戦略となると情報も全くなく、白紙の状態で行き会ったりばったり立ち往生してしまうケースも多いようである。ここではメキシコでの人材戦略の問題点を簡単に見てみたい

(a) 通訳人材

(b)

日系企業がメキシコに工場を設立する際、まず最初に直面する問題が通訳人材確保の困難さであろう。

メキシコは日系人のコミュニティーが南米等と比べると非常に小さく、また日本語を話す日系人はごく一握りである。ただでさえ人口の少ない砂漠の工業団地に凄惨な数の日系企業が進出しており、特に通訳の確保に各社頭を痛めている。給与はエントリレベルで2万5千ペソ（1ドル約12ペソ）だが日に日に高騰しており、早いもの勝ちというのが現状である。

(b) マネージメント

次に直面せざるを得ない問題がマネージメント・マネージャークラスの人材の給与の高さである。特にメキシコは米国の自由競争社会よりもスペインの階級社会に近い状況にあり、マネージメントの人材は、支配者階級であるかのような扱いを受けていると考えて頂いたほうが良いのではないだろうか。大卒エリートマネージャーの給与は米人のそれとあまり変わらない位を見込んで頂かないとならない。

(c) ビザの問題

昨年12月1日から法律が改定され、ビザの手続きが困難になってしまっている。以前は旅行ビザでメキシコに入国した後に簡単な手続きで就労ビザであるFM3が取得可能であったが、法律改定後はこれが出られなくなった。ビザの取得には長い時間が掛かるようになってしまった。

総じてメキシコは優秀なエンジニアの宝庫である反面、事務系特にマネージメントクラスで優秀な人材を確保するのは大変に難しい。製造部門を持たない商社などは特に人事戦略を綿密に建てる必要があるであろう。

出典：

(株)日経リサーチ

「在米日系企業における現地スタッフの給料と待遇に関する調査」